



札幌・大田

姉妹都市提携15周年記念誌



札幌・大田

姉妹都市提携15周年記念誌

目 次

| | |
|--------------------------|----|
| ■ あいさつ | |
| 札幌市長 秋元 克広 | 2 |
| 大田広域市長 イ・ジャンウ | 3 |
| ■ 祝 辞 | |
| 駐札幌大韓民国総領事館 総領事代理 ハン・サンス | 4 |
| 札幌姉妹都市協会会長 岸 光右 | 5 |
| 大田市外国人住民統合支援センター長 キム・ユンヒ | 5 |
| ■ 15周年記念事業 | |
| 15周年記念ロゴマーク | 6 |
| 札幌市から大田広域市へ | 7 |
| 大田広域市から札幌市へ | 11 |
| 札幌市内で行われた大田広域市関連イベント | 14 |
| ■ 札幌市と大田広域市の交流の歴史 | |
| 姉妹都市提携への道のり | 15 |
| 交流回顧録 | 16 |
| 大田広域市との交流事業 | 22 |
| 札幌市の歴代韓国国際交流員からのメッセージ | 23 |
| ■ 大田広域市紹介 | |
| 大田広域市概要 | 28 |
| ■ 資 料 | |
| 経済交流促進のための覚書 | 31 |
| 姉妹都市提携に係る要望書、決議文、盟約書 | 31 |
| 民間交流活性化に関する協定書 | 33 |
| 札幌・大田交流提携団体一覧 | 34 |
| 大田広域市の行政組織と歴代大田広域市長 | 35 |

ごあいさつ

札幌市長 秋元 克広



2025年、札幌市と大田広域市は、2010年10月22日に姉妹都市提携を締結してから、15年という輝かしい節目を迎えました。この記念すべき年に、両市の友情と発展の軌跡を記した記念誌を発刊できますことを、大変うれしく思います。日頃より、両市の交流を支えてくださっている市民の皆様、そして関係者の皆様に、深く感謝申し上げます。

両市の交流は、2003年に共通の姉妹都市記念事業に参加したことを機に始まり、2010年の提携を経て、青少年交流やスポーツ交流などを通じ強固な信頼関係を築いてまいりました。コロナ禍において開始したオンライン学校交流は、生徒たちが互いの文化を紹介し合うなど貴重な学びの場となっており、国境を越えた「次世代の絆」が着実に育まれていることを大変心強く感じております。

2025年8月には、イ・ジャンウ市長のご招待を受け、私をはじめとする代表団が大田広域市を訪問いたしました。大田広域市の夏を彩る「大田0時祭り」では、北星学園大学の学生がYOSAKOIソーランの演舞を披露し、会場は熱気と感動に包まれました。また、経済セミナーやスタートアップ施設の視察を行うなど、経済分野においても互いの強みを学び合う、実り多い時間を共有することができました。

2026年2月には、イ・ジャンウ市長をはじめとする皆様を札幌市にお迎えしました。経済交流会や市内施設の視察を行ったほか、15周年記念レセプションでは、多くの関係者が集う中で両市の変わらぬ友情を再確認する、温かなひとときとなりました。

これからの将来を見据え、私たちは単なる交流にとどまらず、互いに刺激し合い、共に新たな価値を創造するパートナーとしての関係を築いてまいりたいと考えております。両市の固い絆が、未来を担う若者たちの翼となり、更に飛躍を遂げていくことを確信するとともに、大田広域市の限りないご発展と両市の友情が永遠に続くことを祈念いたします。

ごあいさつ

大田広域市長 イ・ジャンウ



謹んでご挨拶申し上げます。

科学と文化芸術の中心都市、大田広域市長のイ・ジャンウでございます。はじめに、大田広域市と札幌市の姉妹都市提携 15 周年を迎えるにあたり、両市の厚い友情のためにご尽力いただいております秋元市長に、心より深く感謝申し上げます。

また、日頃より温かいご声援とご支持をお寄せくださっている札幌市民の皆様にも、大田広域市民を代表して心より御礼申し上げます。

両市が姉妹都市提携を締結してから、2025 年で 15 周年を迎えました。この 15 年という長い歳月の間、両市は信頼を築き、友情をより一層深めてまいりました。行政分野はもとより、経済、文化、スポーツ、青少年分野に至るまで、さまざまな分野で続けてきた交流と協力は、両市市民の心

を一つに結びつけてまいりました。

ご招待をいただき出席いたしました第 76 回さっぽろ雪まつりの会場において、札幌市民の皆様から賜りました温かいご歓迎とご配慮は、今も記憶に残っております。雪と光が織りなす世界的な祭典を楽しみながら、友情と信頼に基づく深い共感と交流のひとつきを過ごすことができました。敬愛する秋元市長と共に行った砂時計の制作実演を通じて、両都市の未来の友情を改めて確認する意義深い時間ともなりました。

このように人と自然が調和する魅力あふれる都市である札幌市と友情を結んでいることは、大田広域市にとって大きな喜びであると考えております。今回の姉妹都市提携 15 周年を契機に、両市の固い友情と信頼が 50 年、さらには 100 年先へと続いていくことを心より願っております。

今後とも、両市が変わらぬ信頼と協力のもと、ともに未来を切り拓いていくことを期待するとともに、札幌市のさらなるご発展と札幌市民の皆様のご多幸を心よりお祈り申し上げます。

ありがとうございました。

祝 辞

駐札幌大韓民国総領事館 総領事代理 ハン・サンス



札幌市と大韓民国・大田広域市が、姉妹都市提携 15 周年という意義深い節目を迎えられましたことを、心よりお祝い申し上げます。また、これまで両市の交流と友好関係の発展にご尽力されました関係者の皆様に、深く敬意を表します。

2009 年の交流開始を経て、2010 年 10 月に姉妹都市提携が結ばれて以来、両市は行政、青少年、文化・芸術、スポーツ、学術、経済など、幅広い分野において継続的かつ実務的な交流を積み重ねてこられました。職員相互派遣や政策分野での意見交換、青少年交流事業や学校・大学間交流、音楽・美術などの文化事業、スポーツ交流、さらには科学・研究分野における共同事業など、両市の協力関係は着実に深化してまいりました。

近年においても、コロナ禍を経て対面交流が本格的に再開され、青少年交流や文化行事、相互訪問団の派遣などを通じて、市民レベルでの交流が再び活発化しています。これらの取組は、両市の友好関係が一過性のものではなく、長期的かつ持続的なパートナーシップとして発展していることを示すものです。

今後とも、これまでの交流を通じて培われてきた信頼関係を基盤に、札幌市と大田広域市の協力関係がさらに発展し、幅広い交流へとつながっていくことを期待しております。駐札幌大韓民国総領事館といたしましても、両市の皆様と緊密に連携しながら、交流の継続と拡大に努めてまいります。

また、札幌市民の皆様におかれましては、これまで同様、両市交流へのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本冊子を通じて、これまで積み重ねられてきた札幌市と姉妹都市との交流の歩みをご覧いただき、今後の札幌市の国際交流、とりわけ札幌市と大田広域市との友好協力関係に、より一層の関心をお寄せいただければ幸いです。札幌市と大田広域市のさらなる発展と、両市の友好関係が今後も末永く継続していくことを祈念し、15 周年のお祝いの言葉といたします。

祝 辞

札幌姉妹都市協会 会長
岸 光右



札幌市と大田広域市は、これまで音楽やスポーツなど様々な分野で交流を積み重ね、昨年、姉妹都市提携15周年の節目を迎えることができました。

札幌姉妹都市協会でも、これを記念して札幌国際プラザと共に

様々な事業を行ったところです。

2025年2月には大田広域市の魅力などを紹介する市民向けセミナーを開催したほか、10月には長きに渡って音楽交流を続けている札幌の演奏家団体との共催により、両市の演奏家による音楽会を開催するとともに、大田の演奏家と札幌市民が韓国語で交流するイベントも開催しました。

さらに、その翌月には、札幌国際プラザ日本文化体験ボランティアにご協力いただき、札幌市の少年少女交流事業の一環で来札した大田の中高生と札幌の中高生に、茶道体験と体験を通じた交流の場を提供しました。

また、8月に札幌市長訪問団が大田を訪問した際には、札幌姉妹都市協会の事務局を務める札幌国際プラザの職員も同行し、現地での交流事業等に参加するとともに、大田広域市外国人住民統合支援センターと今後の市民交流のあり方などについて意見交換を行いました。

このように15周年の節目は、あらためて両市の絆を確認し、今後の親密な交流を進める契機となる年になりました。札幌市にとって最も近くにある姉妹都市として、この温かな友情が末永く続き、両市の絆がさらに深まり未来に向けて発展していくことを心より祈念いたします。

祝 辞

大田広域市外国人住民統合支援センター長
キム・ユンヒ



皆さん、こんにちは。私は大田広域市外国人住民統合支援センターのセンター長、キム・ユンヒと申します。2025年に姉妹都市提携15周年の記念行事として大田の青少年たちと訪れた札幌の第一印象は、その温かさでした。秋元克広札幌市長や子ども未来局、国際

部の関係者さまの温かい歓迎やご配慮、また、きめ細やかなご協力に心よりお礼を申し上げます。特に、市長の表敬訪問は、大田の生徒たちにとって一生忘れられない経験でした。札幌について案内していただき、生徒たちの目線に合わせて激励してくださいました。

2010年10月22日に姉妹都市提携を締結した後、行政のみならず、両市は民間でも緊密で幅広い交流を続けてきました。我がセンターでは、大田広域市の傘下機関として外国人住民の定着を支援する外国人住民支援事業のほか、姉妹・友好都市及び海外都市間の国際交流を支援・実施する国際交流事業を運営しております。2017年からは多数の民間団体の国際交流の事業費を支援し、小中学校のオンライン青少年国際交流を継続的に行ってきました。

15周年を記念して行われた札幌市立柏中学校とのオンライン学校交流事業や姉妹都市少年少女交流事業は、文化でコミュニケーションを図り、友情で一つになる時間でした。大田の青少年たちは「ホームステイ中、心を通わせることができるとてもよかったです。札幌の美しい自然と多彩な文化を経験し、世界を見る視野がさらに広がった。」と語っておりました。改めて、札幌での3日間、家族になってくださったホストファミリーの皆さまに深い感謝と敬意を申し上げます。札幌国際プラザの茶道体験、北海道開拓の村や博物館、さっぽろテレビ塔など美しい紅葉とともに楽しませていただきました。生徒たちが準備した公演や送別パーティーで手紙を読んだ時、お互いに涙を流し、別れを惜しみました。

2026年に札幌の生徒たちが大田を訪問する時、科学と教育の都市、そして幸せな大田を体感していただけるよう、尽力いたします。今後も、この絆が続くことを願い、国際交流の架け橋となる機関として最善を尽くしてまいります。

ありがとうございました。

札幌・大田広域市姉妹都市提携 15 周年記念事業

姉妹都市提携 15 周年を迎えた 2025 年度は、両市市長による相互訪問をはじめ、様々な周年記念行事が開催されました。

15 周年記念ロゴマーク

ロゴマーク

姉妹都市提携 15 周年を記念して、節目を彩るロゴマークを作成しました。

札幌市国際交流員が作成した複数のデザイン案に対し、青年訪問団として渡航した北星学園大学の学生が、大田広域市の韓南大学の学生とともに選考を行い、決定しました。

ロゴマークは、両市を象徴する塔である「さっぽろテレビ塔」と「大田ハンビツ塔」をモチーフに、冬の都市札幌を象徴する雪だるまと、大田広域市のマスコットキャラクター「クムドリ」が、それぞれ塔から顔をのぞかせる親しみやすいデザインです。

ロゴマークは可愛らしいカラーバージョンとシックなモノクロバージョンの 2 種類があり、オリジナルグッズや周年事業の広報チラシなど、様々な場面で活用されました。



ロゴマークを施した 15 周年記念オリジナルグッズ



サコッシュ・うちわ・缶バッジ



法被

札幌市から大田広域市へ

■ 全体概要

イ・ジャンウ大田広域市長からのご招待を受け、2025年8月8日から11日の日程で、秋元市長を団長とする市長訪問団7名が大田広域市を訪問しました。

訪問期間中は、大田広域市で開催された夏のお祭り「大田0時祭り」の開幕式に出席したほか、市内スタートアップ施設等の視察、経済セミナー・ビジネス交流会に出席し、札幌市のビジネス環境に関するPRなどを行いました。

また、北星学園大学の学生で組成された青年訪問団10名も同時期に大田広域市を訪問し、大学間連携協定を締結した韓南大学校の学生と交流を行ったほか、「大田0時祭り」の姉妹友好都市公演にて、YOSAKOIソーランの演舞を披露しました。

■ 主な行程

| 日 程 | 主な行程 |
|----------|---|
| 8月8日(金) | ・「大田0時祭り」開幕式出席 |
| 8月9日(土) | ・青年訪問団大学間交流参加 ・大田広域市姉妹都市全体歓迎昼食会出席 ・経済セミナー・ビジネス交流会参加 ・大田広域市創造経済革新センター訪問 |
| 8月10日(日) | ・大田広域市長表敬訪問 ・大田ドリームアリーナ訪問 ・「大田0時祭り」姉妹友好都市公演出席 |

「大田0時祭り」開幕式

開幕式に先立ち開催された、大田広域市中心部を練り歩くタイムトラベルパレードに参加するとともに、会場内の各展示を視察したほか、開幕式にも参加し、札幌市と大田広域市の友好関係を広くPRしました。



青年訪問団大学間交流

2025年3月に大田広域市の私立大学校である韓南大学校と連携協定を締結した北星学園大学の学生で組成された青年訪問団を現地に派遣し、学生同士の交流事業に参加するとともに、2024年12月に完成した韓南大学校キャンパス革新パークを視察しました。



大田広域市姉妹都市全体歓迎昼食会

「大田0時祭り」に参加する大田広域市の姉妹友好都市関係者を集めた歓迎昼食会に議会訪問団等と共に参加し、今後の姉妹都市関係の更なる発展についてPRしました。



経済セミナー・ビジネス交流会

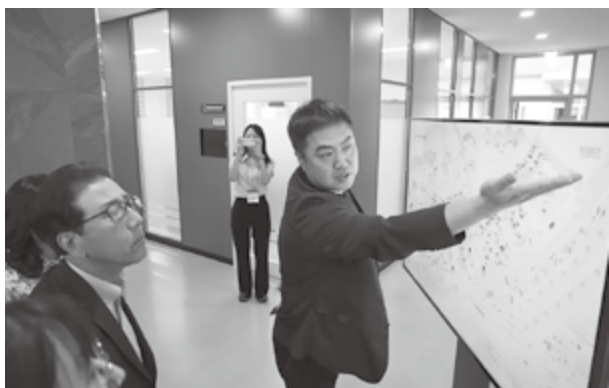
経済セミナーでは、札幌におけるIT関連産業をテーマに、札幌の学識経験者等が講演を行い、札幌市のビジネス環境についてPRしました。

また、ビジネス交流会には、札幌市から9社・団体、大田広域市から12社・団体が参加し、両市企業等による面談を行い、ビジネス機会の創出を図りました。



大田広域市創造経済革新センター

スタートアップ企業等に対する支援を行う同施設を訪問し、地域での創業支援施策やスタートアップ企業向けの成長支援の取組について説明を受けました。



大田広域市長表敬訪問

大田広域市のイ・ジャンウ市長を表敬訪問し、今後の姉妹都市交流の更なる発展の必要性について相互に確認するとともに、さっぽろ雪まつりの時期に合わせ、大田広域市からの姉妹都市提携15周年記念訪問団を札幌市へご招待しました。



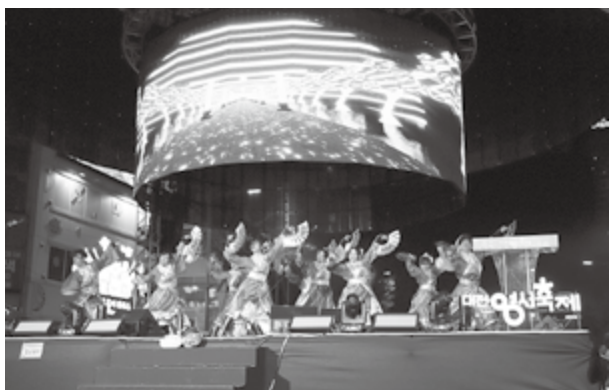
大田ドリームアリーナ

2021年9月に開設されたeスポーツ専用競技場である同施設を訪問し、専用施設ならではの設備や、施設を活用したeスポーツ関係の人材育成の取組などについて説明を受けました。



「大田0時祭り」姉妹友好都市公演

「大田0時祭り」のステージで、札幌市の代表として北星学園大学の学生による青年訪問団がYOSAKOIソーランの演舞を披露し、観衆から熱い歓声が送られました。



大田広域市から札幌市へ

■ 全体概要

2026年2月3日から5日の日程で、イ・ジャンウ市長をはじめとする訪問団が札幌市を訪れました。訪問期間中は、両市のビジネス関係者による経済交流会や、姉妹都市提携15周年を記念したレセプションを開催したほか、大田広域市側の希望に基づいた各種市内視察を行いました。

■ 主な行程

| 日 程 | 主な行程 |
|-----------|--|
| 2月 3日 (火) | ・ 赤れんが庁舎視察 ・ 札幌市長表敬訪問 |
| 2月 4日 (水) | ・ 2026 さっぽろ雪まつり開会式出席、会場視察 ・ 大和ハウス プレミストドーム視察 ・ 経済交流会（経済訪問団のみ） ・ 札幌・大田姉妹都市提携15周年記念レセプション |

赤れんが庁舎

赤れんが庁舎のガイドツアーに参加し、施設内を見学しました。

視察後は、赤れんが庁舎内の貸室にて、「元気カフェたゆたや」と「元気カフェブラン」の2店舗が『出張 元気カフェ@赤れんが庁舎』を実施し、コーヒーとお菓子上で訪問団をおもてなしました。



2010年に札幌市を訪問した当時のヨム・ホンチョル大田広域市長が、札幌市の「元気カフェ」を見学して深い感銘を受けたことをきっかけに、大田広域市に「健康カフェ」が開設されました。現在、「健康カフェ」は、大田広域市内10店舗で営業しています（2024年6月末時点）。

札幌市長表敬訪問

秋元克広市長を表敬訪問し、これまでの両市の交流を振り返り、今後も関係を一層深めていくことを確認しました。



2026 さっぽろ雪まつり開会式、会場視察

イ・ジャンウ市長が2026 さっぽろ雪まつり開会式にご出席されました。

開会式後、大通会場7丁目から11丁目まで徒歩で移動しながら会場を視察し、11丁目で開催されている国際雪像コンクールでは、イ・ジャンウ市長が大田広域市からの出場チームを激励しました。



大和ハウス プレミストドーム

大和ハウス プレミストドームを視察し、施設内の見学等を行ったほか、札幌市スポーツ局より本市のeスポーツの取組について説明しました。



経済交流会

大田広域市のビジネス環境の紹介や、両市参加企業等によるビジネス交流を実施しました。



札幌・大田姉妹都市提携 15 周年記念レセプション

札幌グランドホテルにて、姉妹都市提携 15 周年を祝う記念レセプションを開催し、約 160 名の関係者が出席しました。

オープニングでは、両市市長が共に砂時計に砂を注ぐサンドアートセレモニーを行い、今後とも同じ時を刻み続けていくという願いをこめ、両市の末長い友好関係を約束しました。



その他演出



アトラクションは、青年訪問団として渡航した北星学園大学の学生による YOSAKOI ソーランの演舞を披露しました。



札幌を代表するパン屋「どんぐり」の屋台を設置し、ちくわパンなどの人気メニューを提供。今回来札した大田広域市訪問団のメンバーとして、「株式会社どんぐり」と交流のある大田広域市を代表するパン屋「聖心堂」の理事が参加していたご縁もあり、レセプションに出店していただきました。

札幌市内で行われた大田広域市関連イベント

■ 札幌・大田 姉妹都市提携 15 周年記念 第45回 韓国を知るセミナー「パンの都市、韓国・大田市を知ろう！ 大田市スタンプラリーも楽しもう」

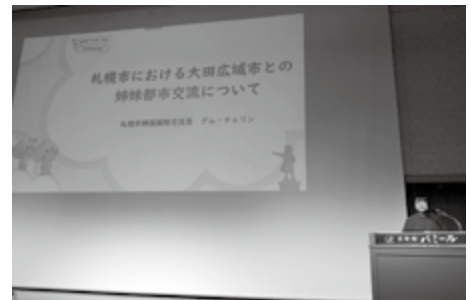
札幌国際プラザの主催により、2025年2月に「第45回韓国を知るセミナー」が札幌国際プラザにて開催されました。姉妹都市提携15周年を記念し、大田広域市出身のヤン・スーミン（前）韓国国際交流員が、大田広域市の魅力や札幌市との関わりについて紹介しました。



■ 北海道で出会う大田

駐札幌大韓民国総領事館の主催により、2025年8月に「北海道で出会う大田」が札幌プリンスホテルにて開催されました。グム・チェリン韓国国際交流員による札幌市と大田広域市の姉妹都市交流紹介のほか、STVアナウンサーによるトークショー、お菓子の試食会などが行われました。

※同イベントは日韓外交正常化60周年記念事業として実施



■ 大ほっかいどう祭

STVの主催により、2025年8月に大和ハウスプレミストドームにて「大ほっかいどう祭」が開催されました。同イベントにて、駐札幌大韓民国総領事館と大田広域市が共同でブースを運営し、韓国文化体験や大田広域市の観光PRなどを行いました。



■ レットトーク韓国語スペシャル ～姉妹都市・大田の音楽家と語ろう～

札幌国際プラザの主催により、2025年10月に「レットトーク韓国語スペシャル」が札幌国際プラザにて開催されました。大田古典音楽研究所に所属する音楽家と札幌市民が、日本と韓国の音楽や、それぞれのまちの魅力をテーマに韓国語で語り合い交流を深めました。



■ 日韓外交正常化60周年記念 2025 札幌市・大田広域市姉妹都市提携15周年記念友好音楽会 ～隣の国の友だち、私達の四季～

輝く若き札幌演奏家団体の主催（共催：大田古典音楽研究所・札幌国際プラザ・札幌姉妹都市協会）により、2025年10月に札幌文化芸術交流センター SCARTS コートにて音楽会が開催され、札幌市と大田広域市の音楽家たちが、四季にあわせた民謡などの演奏を披露しました。



姉妹都市提携への道のり

最も近くて新しい姉妹都市・大田

隣国として多層的な交流を重ねてきた日本と韓国。その象徴である2002年W杯では、札幌・大田の両地で熱戦が繰り広げられました。

近年、両市の交流はさらに加速しています。特に、新千歳と清州を結ぶ直行便の就航は、札幌と大田の物理的な距離を劇的に縮めました。

現在、札幌には韓国から多くの観光客や留学生が訪れ、様々な場面で草の根の交流が生まれています。



調印までの歩み



国際プラザが主催した大田未来プロジェクト
(2003年)

2009年11月、札幌市議会日韓友好を進める有志の会、在日本大韓民国民団北海道地方本部、札幌日韓友好親善協会が、大田広域市と姉妹都市提携を求める要望書を提出し、2010年6月には札幌国際プラザが発起人となり、札幌商工会議所や札幌日韓友好親善協会などから成る「札幌・大田姉妹都市交流推進連絡会」を設置しました。



姉妹都市提携調印式の様子(2010年)

両市の交流は、2003年に共通の姉妹都市であるロシア・ノボシビルスク市の開基110周年記念事業において、大田広域市長から札幌市との姉妹都市提携の提案があったことが始まりです。

札幌市と大田広域市は、都市の規模や産業構造など多くの共通点があることから、大田広域市長の提案を皮切りに、2004年には「経済交流の促進のための覚書」が結ばれたほか、青少年や芸術・文化など様々な分野で盛んに交流が行われました。



札幌市役所のロビーで開催された韓国の彫刻家による
作品展(2010年)

こうして、姉妹都市提携に向けた機運が高まるなか、2010年9月の札幌市議会第3回定例会において、「札幌市と大田広域市との姉妹都市提携に関する決議」が、全議員提出により決議されます。2010年10月22日に、札幌の地で両市長が調印を行い、姉妹都市提携が実現しました。札幌市にとって実に20年ぶり、5番目の姉妹都市が誕生した瞬間でした。

札幌・大田 交流回顧録

2009年（平成21年）

- 11月・在日本大韓国民団北海道地方本部の金団長が札幌市役所を訪れ、上田市長に札幌市と大田広域市との姉妹都市提携を要請。
- ・「札幌市議会日韓友好を進める有志の会」韓国訪問団が釜山広域市と大田広域市を訪問し、関係者と交流を行った。帰国後、韓国の都市との早期の姉妹都市提携に関する要望書を提出。



有志の会による要望書提出

2010年（平成22年）

- 2月・大田広域市の国際諮問大使を団長とする訪問団が来札、札幌国際プラザにおいて大田広域市を知るセミナーの実施や、さっぽろ雪まつり会場に大田広域市 PR ブースを出展したほか、国際雪像コンクールに大田広域市代表として同市在住の彫刻家が参加した。



国際諮問大使による表敬訪問

- 5月・小澤副市長を団長とする訪問団が大田広域市を訪問、大田広域市役所ロビーにて札幌市を紹介するパネル展を開催するとともに、札幌市のパンフレットやさっぽろスイーツを来場者に配布するなど、札幌市のPRを行った。



大田広域市役所で行われたパネル展のテープカット

- 6月・韓国の全国彫刻家協会から28名が来札。札幌市役所1階ロビーにて、室内彫刻44点を展示した。また、訪問団と札幌在住の芸術家との文化交流を深めるため、札幌文化団体協議会の彫刻家と交流を行った。
- 7月・上田市長を団長とする訪問団が大田広域市を訪問。年内における姉妹都市提携について合意する旨の覚書を締結した。また、市立札幌旭丘高校、円山動物園等関係団体が、姉妹団体の提携に向けた確認を行った。



姉妹都市提携に合意する旨の覚書の締結

- 9月・平成22年度札幌市議会第3回定例会において「札幌市と大田広域市との姉妹都市提携に関する決議」が、全議員提出により決議された。
- 10月・ヨム・ホンチョル市長を団長とする大田広域市訪問団が来札。札幌市内において、両市市民の見守る中、両市長が姉妹都市提携の盟約書に調印。この姉妹都市提携にあわせ、市立札幌旭丘高校と大田外国語高校が姉妹校提携を結んだほか、現在の公益財団法人札幌国際プラザが社団法人国際交流文化院及び大田観光公社と、それぞれ交流協定及び覚書の締結を行った。



姉妹都市提携調印式の様子①



姉妹都市提携調印式の様子②

- 11月・札幌市消防局の招待により、大田広域市消防局が札幌市の消防施策に関する研修を受けるため来札。
- 札幌市観光文化局及び札幌国際プラザコンベンションビューローの関係者が大田市において、一般市民向けの観光PRを行った。また、札幌国際プラザコンベンションビューローは、ソウルにおいて開催された「KOREA MICE EXPO」に大田コンベンションビューローと共同出展を行った。
- 12月・大田広域市生活体育委員会及び障がい者体育会の関係者が来札、札幌市スポーツ部と札幌市障害スポーツ振興協会と今後の交流に向けた協議を行った。

2011年（平成23年）

- 2月・第62回さっぽろ雪まつり開催にあわせ、大田広域市選出の国会議員をはじめとする100名を超える訪問団が来札。大田広域市の観光PRパネル展を行ったほか、大田広域市の街並みを再現した大水像を制作した大通会場5丁目の開会式にも出席。



大通会場5丁目の開会式

- ・2010年10月提携時、ヨム・ホンチョル市長が立ち寄った元気カフェの取組を取り入れた「健康カフェ」を大田広域市役所1階にオープンした。
- 5月・第1回目の札幌-大田職員合同短期研修を実施し、大田広域市職員4名（文化・スポーツ関係）の受入れを行い、札幌市観光文化局長を訪問したほか、豊平館や札幌コンサートホール Kitara 等を視察した。
- 6月・職員相互派遣研修として、札幌市の宮岡完職員（係長職）1名を大田広域市役所に研修派遣。（～2013年3月まで）
- ・コンサドーレ札幌が、大田広域市において、大田シチズンとの親善試合を実施した。
- 7～8月・札幌市子ども未来局の姉妹都市少年交流事業として、ノボシビルスク市と大田広域市の少年少女が来札し、市内の同世代の学生と文化体験等の交流プログラムを実施した。
- 8月・国際親善ジュニアスポーツ姉妹都市交流事業の一環として、大田広域市の中学女子バレーチーム（10名）が来札し、札幌市立中島中学校の生徒と親善試合や交流を行った。
- ・職員相互派遣研修として、大田広域市のソン・フンシク職員（工業事務官）1名を研修職員として受入。（～2013年6月まで）
- 9月・札幌-大田職員合同短期研修の一環として、札幌市職員2名（観光文化局・札幌市芸術文化財団所属）を派遣、博物館等の視察や、今後の文化交流について協議を行った。

- ・ソウル市で行われた「日韓交流おまつり2011 in Seoul」に、札幌市観光文化局が大田広域市と共同でPRブースを出展、来場者に姉妹都市の周知や両市の観光資源のPRを行った。

- 10月・「さっぽろオータムフェスト2011」に大田広域市との交流をPRするブースを出展。



「さっぽろオータムフェスト」に大田広域市PRブースを出展

- ・札幌マラソン大会に大田広域市より選手3名が参加。
- ・姉妹都市提携1周年を記念する訪問団約100名が大田広域市を訪問、孝文化祭りへの参加やハンパツ樹木園での記念植樹など、現地での記念事業に参加した。
- ・「姉妹都市記念映像制作事業」として、札幌市の映像制作業者が大田広域市において、街並みや生活風景の撮影、大田広域市長のインタビューなどを実施した。
- 11月・大田広域市で開催された「日韓露科学都市共同シンポジウム」に、3都市の学識関係者らが参加。札幌市からは、札幌市立大学の教授2名が出席して発表を行ったほか、パネルディスカッションに参加した。



ハンパツ樹木園での記念植樹

2012年（平成24年）

- 2月・キム・ジョンデ大田-札幌姉妹都市委員会委員長をはじめとする市民訪問団50名程度と大田広域市役所関係者が札幌市を訪問。さっぽろ雪まつりの会場特設ブースにて、大田広域市の観光PRを実施するなどした。
- ・「姉妹・友好都市青少年未来プロジェクト事業」に、瀋陽市（9名）と大田広域市（8名）から大学生が参加し、市内の大学生（13名）と合宿形式のセミナーを実施した。
- 3月・大田広域市長からのご招待をうけ、札幌市子ども未来局の大田広域市少年交流事業として、札幌市の少年少女10名を大田広域市に派遣し、ホームステイをしながら現地の学校を訪問するなどの交流事業を実施した。

- 5月・大田広域市で開催された「第35回 WACS（世界司厨士協会連盟）世界会議」に上田市長以下札幌市訪問団が参加し、参加者に向けて北海道・札幌の食や食文化のPRを行ったほか、大田広域市長表敬訪問などを実施した。
- 6月・イ・サンテ議長をはじめとする大田広域市議会訪問団8名が来札し、YOSAKOIソーラン祭りを視察したほか、札幌市議会議長表敬訪問などを実施した。
 - ・札幌一大田職員合同短期研修の一環として、大田広域市職員1名（経済関係）の受入れを行い、札幌市経済局で研修を受けたほか、北洋銀行にて地方銀行の役割等について説明を受けた。
- 7月・北海学園大学と大田大学が実施する地域コミュニティに関する共同研究の一環として、北海学園大学において国際シンポジウムを開催するにあわせてヨム・ホンチョル市長が来札し、北海学園大学において大田広域市の福祉政策等に関する特別講義を実施した。
 - ・札幌市子ども未来局の姉妹都市少年交流事業として、7月27日から8月3日の8日間、札幌市の少年少女10名がノボシビルスク市を訪問した。
- 8月・札幌市の中体連のチーム（中学生16名）が、大田広域市において開催されたサッカーの親善大会に参加した。同市の姉妹友好都市であるノボシビルスク市や中国・済南市、南アフリカ・ダーバン市の中学生と、試合や文化体験などを通じて交流を深めた。なお、大会は札幌チームが全勝し優勝を果たした。
- 10月・札幌一大田職員合同短期研修の一環として、札幌市職員3名（子ども未来局所属）を派遣、大田広域市の子育て福祉施策に関する説明を受けたほか、青少年保護施設の視察などを行った。
 - ・大田広域市で開催された「大田国際フード&ワインフェスティバル」に生島副市長以下札幌市訪問団が参加し、開会式への出席や会場視察などを行った。同時に開催された「ワインと飲食産業展」には、札幌市から2社（コンチネンタル貿易株式会社、株式会社Kカンパニー）が出展し、札幌の酒などを出品した。

2013年（平成25年）

- 2月・第64回さっぽろ雪まつりの開催にあわせ、ヨム・ホンチョル市長をはじめとする70名を超える訪問団と、クァク・ヨンギョ議長団5名が来札。雪まつりに参加したほか、札幌市の除雪体制などについて視察を行った。
- 3月・職員相互派遣研修として大田広域市に派遣している札幌市の宮岡完職員（係長職）の研修期間が満了、帰国した。
- 5月・大田広域市にあるTJB（大田放送）がHTB（北海道テレビ放送）との友好協力関係を強化するために来札した折に、生島副市長を表敬訪問した。
- 6月・札幌市で受入している大田広域市のソン・フンシク職員（工業事務官）が研修期間を2014年6月まで延長。
- 7~8月・札幌市子ども未来局の姉妹都市少年交流事業として、7月29日から8月2日の5日間、札幌市の少年少女10名が大田広域市を訪問した。
- 10月・秋元副市長をはじめとする訪問団（4名）及び「札幌国際親善の集い」訪問団が、大田広域市で開催された「大田フード&ワインフェスティバル」と「世界市民交流ハンマダン祭り」に参加するため大田広域市を訪問した。



「世界市民交流ハンマダン祭り」の開会式

- 11月・北海道大学にて、大田広域市とノボシビルスク市との「3姉妹都市共同科学シンポジウム」を開催。大学研究者や行政関係者等が集まり、それぞれのエネルギー事情や方向性等の情報を共有したほか、低炭素社会の実現と再生可能エネルギーの役割等、今後の北海道における持続可能な社会構築について議論した。
 - ・札幌一大田職員合同短期研修の一環として、大田広域市職員4名（経済関係）の受入れを行い、札幌市環境局及び観光文化局にて研修を受講した。

2014年（平成26年）

- 2月・第65回さっぽろ雪まつりの開催にあわせ、キム・インホン政務副市長をはじめとする行政関係者や市民訪問団など、40名を超える訪問団が来札。雪まつりに参加したほか、札幌市の危機管理体制を学ぶため、無線統制室や災害備蓄庫の視察を行った。
 - ・札幌国際プラザと大田国際交流センター（現・大田広域市外国人住民統合支援センター）が姉妹団体としてのMOUを締結。



交流協定書調印式の様子

- 3月・札幌一大田職員合同短期研修の一環として、札幌市職員2名（経済局所属）を派遣、韓国電子通信研究院や大田広域市役所の視察などを行った。
- 6月・札幌市で受け入れしていた大田広域市のソン・フンシク職員（工業事務官）の研修期間が満了、帰国した。
- 7月・札幌市囲碁同好会が大田広域市を訪問し、大田広域市囲碁同好会と交流対局などを行った。
- 8月・札幌市子ども未来局の姉妹都市少年交流事業として、8月2日から8月7日の5日間、大田広域市及びノボシビルスク市から少年少女各10名を札幌市に受け入れ、交流プログラムを実施した。
- 9月・大田広域市自転車同好会が札幌市を訪問し、札幌市サイクリング同好会と交流。また、札幌市の概要や自転車施策について説明及び視察を行った。



大田広域市自転車同好会一行

11月・ユネスコと大田広域市が共催した、「大田世界革新フォーラム」への招待を受け、出井国際部長が大田広域市を訪問した。

2015年（平成27年）

- 2月・第66回さっぽろ雪まつりの開催にあわせ、パク・チュンヒ政務副市長一行5名が来札。雪まつりに参加したほか、大倉山や中央図書館などの視察を行った。
- 5月・韓国総領事館主催の日韓国交正常化50周年記念公演のPRブースにて、大田広域市のパネル展や大田広域市の魅力PRを行った。
- 7~8月・札幌市子ども未来局の姉妹都市少年交流事業として、7月28日から8月3日の7日間、札幌市と大田広域市の少年少女がノボシビルスク市を訪問した（札幌市の参加者は8名）。

2016年（平成28年）

- 1月・大田広域市囲碁同好会が「2016年大田市・札幌市囲碁交流イベント」に参加するため来札。町田副市長を表敬訪問した。
- 2月・第67回さっぽろ雪まつりの開催にあわせ、大田広域市のパク・チュンヒ政務副市長一行5名が来札。雪まつりに参加したほか、藻岩山や札幌ドームなどの視察を行った。
- 7~8月・札幌市子ども未来局の姉妹都市少年交流事業として、7月28日から8月1日の5日間、札幌市とノボシビルスク市の少年少女が大田広域市を訪問した（札幌市の参加者は10名）。
- 10月・韓国自閉障がい者愛協会テジョン支部訪問団が来札し、市内の障がい者就労施設の視察等を行ったほか、都市長室長への表敬訪問も行った。
 - ・大田広域市ハッカ小学校のパク・ジョンシク校長が来札。かねてから学校間交流に向けて協議をしていた札幌市立大倉山小学校を訪れ、同校の類家斉校長と将来的な姉妹校提携に向けた交流促進について同意書を交わした。

2017年（平成29年）

- 2月・第68回さっぽろ雪まつりの開催にあわせ、大田広域市のクォン・ソンテク市長が市長就任後初めて来札し、雪まつり会場や大倉山ジャンプ競技場などを視察したほか、札幌国際プラザにて、両市共催の「大田の夕べ」を開催し、参加した市民に向けて大田広域市の魅力PRを行った。



「大田の夕べ」にて大田広域市の魅力をPR

- 3月・民間交流の一環として、韓国音楽協会大田市部と札幌音楽家協会による合同演奏会を札幌大谷大学で開催するにあたり、韓国音楽協会大田市部会長らが都市長室長を表敬訪問した。
- 7月・札幌市子ども未来局の姉妹都市少年交流事業として、7月14日から18日の5日間、大田広域市とノボシビルスク市の少年少女が札幌市を訪問し、ホームステイや文化体験を通して交流を行った。
- 9月・「2017年アジア・太平洋都市サミット（APCS）&市長フォーラム」に出席するため、岸副市長以下札幌市訪問団が大田広域市を訪問。滞在中は、APCSの会議に参加したほか、札幌市立大倉山小学校の類家斉校長とともに大田広域市ハッカ小学校を訪問し、姉妹校提携調印式を行った。



大倉山小学校とハッカ小学校による姉妹校提携調印式の様子

2018年（平成30年）

- 2月・第69回さっぽろ雪まつりの開催にあわせ、大田広域市のソン・チョルウン政策企画官ら3名が来札。雪まつりに参加したほか、札幌ドームや大倉山ジャンプ競技場などの視察を行った。また、札幌市都心まちづくり課から札幌のまちづくりに関する説明を行った後、両市のまちづくり政策について意見交換を実施した。
- 7月・大田広域市CNCITY社と北海道ガスが事業交流を実施。寒冷地である北海道のエネルギー活動の紹介や、石狩基地の見学などを行った。
- 7~8月・札幌市子ども未来局の姉妹都市少年交流事業として、7月29日から8月9日の12日間、札幌市と大田広域市の少年少女がノボシビルスク市を訪問した（札幌市の参加者は10名）。
- 11月・大田ろうあ者協会が札幌聴覚障害者協会との交流協定を締結するために札幌市を訪問し、岸副市長を表敬訪問した。

2019年（令和元年）

- 2月・第70回さっぽろ雪まつりの開催にあわせ、大田広域市のパク・ヨンスン政務副市長ら4名が来札。雪まつりに参加したほか、大倉山ジャンプ競技場や円山動物園などの視察を行った。
- 6月・札幌市の町内活動や市民活動促進に向けた取組を学ぶため、大田広域市のチョイ・シボク共同体支援局長ら7名が来札し、町田副市長への表敬訪問を行った。
- 8月・札幌市子ども未来局の姉妹都市青少年交流事業として、8月1日から8月5日の5日間、札幌市とノボシビルスク市の青少年が大田広域市を訪問した（札幌市の参加者は10名）。

2020年（令和2年）

- ・第71回さっぽろ雪まつりの開催にあわせ、大田広域市のキム・ジェヒョク政務副市長ら4名が来札。雪まつりに参加したほか、大倉山ジャンプ競技場や札幌ドームを視察を行った。また、姉妹都市提携10周年に関する協議を実施した。

2021年（令和3年）

- 11月・札幌市立明園中学校と大田広域市シンタンジン中学校がオンライン学校交流を実施し、お互いの国の文化紹介などを行った。
- 12月・札幌市立大倉山小学校と大田広域市ハッカ小学校がオンライン学校交流を実施し、お互いの学校紹介やYOSAKOIソーランの発表などを行った。
- ・それぞれが姉妹友好都市である札幌市、大田広域市、瀋陽市、ノボシビルスク市の児童によるオンライン学校交流を実施。札幌市からは札幌市立大倉山小学校が参加し、各都市児童によるダンスや楽器演奏などの発表を行った。



大倉山小学校の児童がダンスを披露

2022年（令和4年）

- 10月・札幌市立澄川西小学校と大田広域市ドンサン小学校がオンライン学校交流を実施し、お互いの学校や文化の紹介などを行った（11月に2回目の交流を実施）。
- 11月・札幌市立平岸中学校と大田広域市ウソン中学校がオンライン学校交流を実施し、音楽やアニメなどの趣味を紹介し合った。

2023年（令和5年）

- 2月・第73回さっぽろ雪まつりの開催にあわせ、大田広域市のイ・ジャンウ市長ら16名が来札。雪まつりに参加したほか、藻岩山を視察などの視察を行った。
- ・オンライン学校交流をきっかけとして、札幌市立澄川西小学校と大田広域市ドンサン小学校が姉妹校提携を締結。ドンサン小学校のパク・ジョンヨン校長が来札し、澄川西小学校にて姉妹校締結式を行った。



澄川西小学校とドンサン小学校による
姉妹校提携締結の様子

- 8月・秋元市長をはじめとする訪問団（5名）が、大田広域市で開催された「大田0時祭り」に参加するため大田広域市を訪問。開会式に出席したほか、大田コンベンションセンターなどを視察した。また、両市の市民を対象として、相手都市を訪問した際に観光施設等を割引料金で利用できる「姉妹都市間民間交流活性化に関する協定」を締結した。



「大田0時祭り」の開会式



「姉妹都市間民間交流活性化に関する協定書」
締結の様子

- 11月・札幌開成中等教育学校と大田広域市チョンラン女子高校がオンライン学校交流を実施し、お互いの学校紹介やディスカッションなどを行った。

2024年（令和6年）

- 2月・第74回さっぽろ雪まつりの開催にあわせ、イ・ジャンウ市長をはじめとする市長訪問団や大田広域市立舞踊団など、70名を超える訪問団が来札。雪まつりに参加したほか、サッポロファクトリーのアトリウムにて大田広域市立舞踊団が公演を行った。



大田広域市立舞踊団による公演

- 5月・大田広域市にて開催された第20回三大河川マラソン大会に、札幌市より選手4名とスポーツ局職員1名が出場した。
- 8月・天野副市長をはじめとする訪問団（4名）が、大田広域市で開催された「大田0時祭り」に参加するため大田広域市を訪問。開会式に出席したほか、大田広域市外国人住民統合支援センターなどを視察した。
- 10月・札幌マラソンに大田広域市より選手4名が出場したほか、札幌市スポーツ局やスポーツ協会関係者と交流を行った。
- 11月・札幌市立八軒東中学校と大田広域市シンタンジン中学校がオンライン学校交流を実施し、各国の文化や都市の紹介などを行った。
- ・札幌市立元町中学校と大田広域市シンタンジン中学校がオンライン学校交流を実施し、流行っている言葉の紹介などを行った。

2025年（令和7年）

- 2月・札幌国際プラザと大田観光公社が、MICE誘致に関する情報共有や共同PRの強化に向けて「MICE発展のための覚書」を締結した。
- ・第75回さっぽろ雪まつりの開催にあわせ、ユ・ドゥグォン行政副市長ら5名が来札。雪まつりに参加したほか、大和ハウスプレミストドームなどを視察した。また、雪まつり会場にて大田広域市が大田観光公社と共同で雪まつり会場9丁目にブースを出展。ブースでは、大田広域市の観光プロモーションのほか、姉妹都市提携15周年記念写真展も設置し、姉妹都市提携15周年の歩みを写真で回顧した。



姉妹都市提携15周年記念広報館

- ・札幌国際プラザ主催の「札幌・大田姉妹都市提携15周年記念 第45回韓国を知るセミナー」が開催され、韓国国際交流員が参加者に大田広域市の魅力や札幌市との関わりについて紹介した。

- 4月・大田広域市にて開催された第21回三大河川マラソン大会に、札幌市よりスポーツ局職員1名が出場した。

- 8月・秋元市長をはじめとする市長訪問団（7名）、経済訪問団、議会訪問団及び青年訪問団が、大田広域市を訪問。現地では、市内視察や現地企業との経済セミナー・ビジネス交流会を開催したほか、「大田0時祭り」の舞台では、青年訪問団として渡航した北星学園大学の演舞同好会～廻～のメンバー10名がよさこいソーランの演舞を披露した。



北星学園大学～廻～によるYOSAKOIソーランの演舞

- ・韓国総領事館主催の「北海道で出会う大田」が開催され、韓国国際交流員が参加者に札幌市における大田広域市との姉妹都市交流について紹介した。

- 10月・札幌市立柏中学校と大田広域市イムン高校がオンライン学校交流を実施し、姉妹都市提携15周年記念セレモニーを行い、両市より記念品贈呈などを行ったほか、お互いの都市紹介などを行った（9月と11月にも1回ずつ交流を実施）。

- 11月・札幌市子ども未来局の姉妹都市少年少女交流として、11月1日から11月4日の4日間、大田広域市の少年少女10名を札幌市に受け入れ、交流プログラムを実施した。

2026年（令和8年）

- 2月・第76回さっぽろ雪まつりの開催にあわせ、大田広域市のイ・ジャンウ市長をはじめとする市長訪問団、経済訪問団など、60名を超える訪問団が来札。雪まつりに参加したほか、経済交流会や札幌・大田姉妹都市提携15周年記念レセプションを開催するなどした。



15周年記念レセプションの様子

大田広域市との交流事業

姉妹・友好都市オンライン学校交流（総務局国際部・教育委員会）

時差がない特性を生かして、毎年、両市の小中高等学校をマッチングしてオンラインで交流する事業を2021年度から開始しました。コロナ禍においても交流を継続し、両市の学生たちが互いの都市や文化について紹介するなどして交流を行っています。

2025年度は札幌市立柏中学校と大田広域市イムン高校をマッチングし、全3回にわたってオンライン交流を実施しました。



姉妹都市少年少女交流事業（子ども未来局）



共通の姉妹都市である札幌市、大田広域市、ノボシビルスク市の3都市間で、少年少女を派遣し、交流事業を通じて相互理解と友好親善を深め、国際的視野の広い少年少女の育成を図ることを目的として実施しています。

2025年度は大田広域市の少年少女が札幌市でホームステイを経験し、文化体験や市内視察などを通じて友好を深めました。

マラソン交流（スポーツ局）

2024年に大田広域市で開催された三大河川マラソン大会と札幌マラソンに選手団等を相互派遣し、ランナー同士の交流や市内視察などを実施しました。

2025年は、4月に大田広域市で開催された三大河川マラソン大会に札幌市スポーツ局職員等が参加しております。



札幌市の歴代韓国国際交流員（姉妹都市提携以降）からのメッセージ

札幌市では、韓国から国際交流員を採用しており、大田広域市をはじめとした韓国関係者との交流の場面などで活躍していただいています。

このたびの姉妹都市提携 15 周年にあたり、姉妹都市提携以降の歴代国際交流員の皆さんから、お祝いのメッセージをいただきましたのでご紹介いたします。

Message

カン・ミンジヨン さん（2008 年 4 月～ 2012 年 4 月）

【2010 年 10 月姉妹都市提携時に在任】

『札幌市・大田広域市 姉妹都市提携 15 周年を祝して』

このたび、札幌市と大田広域市が姉妹都市提携 15 周年という大きな節目を迎えられましたことを、心よりお祝い申し上げます。

振り返れば 15 年前、札幌市の新たな姉妹都市として私の母国である韓国の「大田広域市」が選定されたと初めて耳にした時の、あの胸が高鳴るような感動を、今でもはっきりと覚えております。そして、その選択が現実のものとなり、2010 年 10 月 22 日、両市が正式に姉妹都市提携を締結した瞬間の緊張感と高揚感は、今もなお鮮明に心に刻まれています。

提携準備の段階から締結当日、さらには翌年の 1 周年記念事業に至るまで、実務担当者（国際交流員）として現場で関わらせていただく中で、言葉や制度、文化の違いを一つひとつ乗り越えながら、両市の信頼関係が着実に築かれていく過程を一番近くで見届けられたことは、私にとって何ものにも代えがたい貴重な財産です。

当初の団体や教育機関を中心とした小さな歩みが、年を重ねるごとに市民一人ひとりが主役となる「草の根の交流」へと広がり、より深い相互理解と信頼へと発展している様子を、遠く離れた地からではありますが、この上ない誇らしさを持って拝見してまいりました。

15 周年を迎えた今、これまで積み重ねてこられた歩みの重みを改めて感じるとともに、札幌市と大田広域市の友情と協力の絆が、この先 50 年、100 年、さらには 150 年と、次世代の未来へ向かって力強く受け継がれていくことを、心より願っております。

改めて、両市の限りない発展と皆様のご多幸をお祈り申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。



市長表敬訪問で通訳をする筆者
（右から 2 人目）



大田市内で訪問団と共に写真に写る筆者（一番右）

Message

ユン・ソヨン さん (2012 年 4 月～2014 年 3 月)

『札幌へ』



札幌の皆さま、ご無沙汰しております。そして、大田市との姉妹提携 15 周年おめでとうございます！

今から 10 年ほど前、大田で行われる「ワインフェスティバル」に招待され、当時秋元副市長と大田を訪問し、活気あふれる大田を間近に感じることができました。私は仕事で行ったのでワインをたくさん楽しめなかったのが残念でしたが、今も毎年ワイナリーのぶどうの収穫が終わる秋に開催されていますので、皆さんはぜひ一度行ってワインをたくさん堪能してみてください！

国際交流員の仕事を終えて、現在は岡山で 2 児の母として忙しく過ごしています。時々図書館のイベントで、韓国語で絵本の読み聞かせをえています。集中して聞いてくれる子どもたちの顔をみると、とても可愛らしく癒されます。

また、札幌マラソン(第 37 回)をきっかけにずっとマラソンを続けています。去年は岡山マラソンも完走しました。いつかまた札幌の街を走りたいです！

Message

ソン・ミンジ さん (2014 年 4 月～2017 年 4 月)

『笑顔になれる街、札幌で笑顔になれた私』



人口約 200 万人が暮らす街の中で、これほど年間積雪量の多い街は、世界でも札幌だけだと聞いたことがあります。しかし、札幌で出会った人々の温かさは、街に降り積もる雪のように静かに心に積もり、今も私の胸に残っています。

国際交流員としての 3 年間は、毎年の「韓国を知るセミナー」、毎月の「韓国語ボランティア定例会」、毎週の「レッツトーク・ハングル」など、日々が国際交流で彩られ、笑顔にあふれた時間でした。特に、今年姉妹都市提携 15 周年を迎えた大田市との交流は、私にとってかけがえのない思い出です。新卒で仕事や生活に慣れなかった私を、札幌市役所に派遣されていた大田市役所の職員の方が温かく支えてくださいました。また、大田市役所囲碁同好会の訪問や雪まつり期間中の交流では、通訳として関わる中で、言葉や文化を越えて互いの信頼関係が深まるのを感じ、自然と笑顔になれました。



国際部の方々にもたくさん助けられ、こうした経験を経て、現在は韓国の京畿道の公立高校で日本語を教えながら、二人の子どもを育てています。札幌での出会いや国際交流員としての思い出は、教えることや子育てにおいても、今も心の支えとなっています。これからも交流の温かさを心に留め、笑顔を大切にしながら毎日を過ごしていきたいと思ひます。

Message

イ・ミヒョンさん (2017年4月～2021年4月)

『大切な思い出をありがとうございます!』

2017年4月から2021年4月まで韓国国際交流員を務めたイ・ミヒョンです。振り返ってみると国際交流員を卒業してもう5年が過ぎていました。時間が過ぎるのがとても速いです。

今は韓国のIT企業や法律事務所のフリーランス通訳・翻訳として働いていますが、まるで国際交流員として働いていたことが夢のように思われます。とても特別な経験で、日本に滞在しながら韓国と関連のある仕事ができ、無縁だと思っていた大田と札幌という二つの市と縁ができました。大田と札幌が姉妹都市でなければ、こんな経験はできなかったでしょう。



そして私個人だけの特別な経験にとどまらず、私のような国際交流員が札幌で交流活動をする事で、札幌の生徒や市民のみなさんにとっても、日常でちょっとした特別な経験ができていると信じます。

これからも両市の交流が深まって、大切な思い出がもっともっと増えることをお祈りします。

札幌・大田姉妹都市提携15周年おめでとうございます!

(写真) 2025年12月に、京都に遊びに行ったときの写真ですが、札幌・北海道にもたくさんお邪魔しています!
実は母のお気に入りの場所が礼文島でして、もう2回も行ってきました。3回目もチャレンジします(笑)

札幌市と大田広域市の姉妹都市交流 15 周年、誠にありがとうございます。

大田広域市出身の私にとって、札幌市の国際交流員として札幌 - 大田交流に携わることができたことは、大きな喜びであり、今でも心から誇りに思っています。私が交流員として在任していた当時は、新型コロナウイルス感染症の影響により、対面での交流に制限がある時期でもありました。しかし、札幌市と大田広域市は、そのような状況の中でも学校間のオンライン交流を実施するなど、直接会うことができなくてもご縁をつなぎ続けてきました。

また、在任中には、姉妹都市間の民間交流活性化に関する協定の締結や、さっぽろ雪まつりへの大田市観光 PR ブースの出展など、両市の魅力を市民の皆さまに広く発信する貴重な機会にも恵まれました。大田市を紹介するセミナーを開催し、約 60 名の札幌市民の皆さまに自分のふるさとについてお話しできた時間は、今も忘れられない大切な思い出です。

こうした経験を重ねるうちに、札幌は私にとって「第二の実家」のような存在になりました。街の温かさ、人々の優しさ、そして交流を通じて築かれた数多くのご縁は、今も私の心の中で生き続けています。



現在、私は CityNet (アジア・太平洋都市ネットワーク) という国際機関 (NGO) で、日本担当者として勤めております。札幌市役所在任中に担当した日韓姉妹都市交流の経験は、現在の世界の都市をつなぐ仕事へと自然につながっていると思っております。また、JET 卒業者で構成された親睦団体である JETAA の大韓民国支部会長として、JET プログラムの成果を広く発信する活動にも携わり、日本とのご縁を今も大切に育み続けています。

人と人との交流から始まった姉妹都市関係が、市民同士の信頼と理解を深め、やがて都市と都市、さらには国と国をつなぐ架け橋となっていくことを、心から願っています。



札幌市と大田広域市の姉妹都市提携 15 周年、おめでとうございます。赴任 1 年目に私の地元である大田広域市と札幌市の姉妹都市提携 15 周年記念事業に参加できたことを大変嬉しく思っております。

2025 年 4 月に赴任して以来、振り返ってみると姉妹都市交流に関する仕事が一番多かったです。15 周年記念の大田出張や駐札幌大韓民国総領事館のイベント「北海道で出会う大田」で大田と札幌の交流について発表したこと、オンライン学校交流などに携わってきました。その間、大田について調べながら大田出身とは言え、あまり知らなかった大田の様々な姿を見ることができました。



大田出張で市長通訳を務める筆者

特に初めて札幌市民の皆さんの前に立った駐札幌大韓民国総領事館のイベントが印象に残っています。多くの市民の皆さんの前で札幌と大田の 15 年間の姉妹都市交流について紹介しながら、興味を持って聞いてくださる姿を見て民間交流の重要性を改めて確認することができました。

これからも大田出身の韓国国際交流員として札幌市と大田広域市の姉妹都市交流に尽力していきたいと思っております。また、両市の交流がこれから 20 年、30 年と続くことを心からお祈り申し上げます。改めて、姉妹都市提携 15 周年、誠におめでとうございます！



札幌と大田の姉妹都市交流について発表する筆者

大田広域市の概要

大韓民国 5 大都市の一つです。「大田」とは広大な土地を意味します。韓国のほぼ中心部に位置しており、南北をつなぐ高速道路と鉄道が交差する交通の要地となっています。

1993 年には大田世界博覧会(科学エキスポ)が開催され、韓国随一の科学技術都市としても知られています。現在は、大徳(デドク)研究開発特区や様々な国立研究所などが位置しており、「科学の都市」と呼ばれています。



【位置と面積】

位置：北緯 36 度 10 分、東経 127 度 33 分

面積：539.8km²

大田広域市は首都ソウルまでは 167.3km、釜山までは 238.2km、広州までは 169km の距離にあり、韓国の心臓部に位置しており、半日で国内のどこへでも移動することができます。ソウルから KTX（韓国高速鉄道）で南にわずか 1 時間の距離です。

【気候】

四方を山で囲まれた盆地地形で、はっきりとした四季があります。春は温かく空気が澄んだ日が多くとても快適で、夏は蒸し暑い気候で雨が多いです。秋は涼しくて快晴の日が多く、冬はシベリア気団の影響で寒くて乾燥しており、雪はあまり降りません。

2025 年の年間平均気温は、14.4℃で、降水量は 1,554 mm です。

【人口】

144 万 550 人（2026 年 1 月現在）。

ソウル、釜山、仁川、大邱に次ぐ韓国 5 番目の都市です。外国人住民は 28,364 人であり、そのうち日本人は 463 人います（2025 年 12 月末現在）。

【市章・ブランドスローガン】

市章：交通、行政、科学、文化の中心地として市民の夢と理想を表現しています。

ブランドスローガン：「Daejeon is U」は大田市の核心価値が市民であることを意味しています。



Daejeon is U

【市のマスコットキャラクター】

大田のマスコットキャラクターは、クムドリです。1993年に開催された大田世界博覧会に招待されてやってきた宇宙妖精で、科学技術と産業の発展による人類の平和と共存共栄の未来像を体現したキャラクターです。



【歴史（沿革）】

大田広域市は最先端科学の新興都市というイメージがありますが、大田地域からは先史時代の遺物と古代の壺が発見され、旧石器時代からの祖先が住んでいた悠久の歴史を持つまちなのです。

百済の時代には、都の置かれた公州に近接しており、いくつかの城壁が築られました。李氏朝鮮の時代には「幾湖学派」という韓国儒教の書院の中心地となり、幾人もの著名な儒学者を輩出しています。

日韓併合の時代には、ソウルから釜山まで鉄道が建設され、大田は運送の要地となりました。大韓民国独立後の1949年に大田市が成立。朝鮮戦争により大田市は廃墟と化しましたが、1970年代にはソウルから釜山、ソウルから木浦をつなぐ高速道路の分岐点となり、再び物流の中心地となりました。

1973年には「大徳研究団地」の開発が始まり、以後、韓国科学技術院などの研究機関が集積されていきます。そして1993年には大田世界博覧会（科学エキスポ）が開催され、大田市は世界的な都市に飛躍していきます。1995年には広域市に昇格し、現在でも科学の代表都市として発展を続けています。

大田広域市の歩み

| | |
|-------|-----------------------------------|
| 1905年 | 京釜線大田駅開通 |
| 1931年 | 大田都市計画事業実施、大田面から大田邑に昇格（人口23,284人） |
| 1932年 | 忠清南道庁の移転（公州→大田） |
| 1949年 | 大田市に改称（人口126,704人） |
| 1973年 | 大徳研究団地建設計画樹立 |
| 1977年 | 東区庁、中区庁設置 |
| 1989年 | 大徳郡を編入して大田直轄市に昇格（人口100万人突破） |
| 1992年 | 大徳研究団地完工 |
| 1993年 | 大田世界博覧会（科学エキスポ）開催 |
| 1995年 | 大田広域市に名称変更 |
| 2001年 | 大田ワールドカップ競技場完工 |
| 2003年 | 大田文化芸術の殿堂開館 |

| | |
|-------|-------------------------|
| 2007年 | 都市鉄道1号線地下鉄開通 |
| 2010年 | 人口150万人突破 |
| 2024年 | 都市鉄道2号線トラム着工（2028年開通予定） |

【経済・産業】

大田広域市の産業は、サービス業が75.2%で一番多く、鉱業・製造業が17.5%、建設業が5.9%でその次を占めています。

また、IT融合・バイオメディカル・ナノ融合・精密機器に特化している大徳研究開発特区が位置しております。大徳研究開発特区は国内最高の研究機関が集積しており、公共研究機関が38カ所（政府出捐27カ所、教育機関7カ所、国公立研究機関4カ所）、その他の研究機関8カ所、政府及び国・公立機関30カ所、その他非営利機関が27カ所など、総計2,914機関が入居しています。

大田市のGRDP（地域総生産）は、56.3兆ウォンであり、全国9位です。1人あたりのGRDPは3,822万ウォン（2024年）です。

【交通】

大田は高速道路と国道、鉄道が京釜線（ソウルと釜山）と湖南線（大田と全羅南道）に分岐し、全国をつなぐ交通の要地です。また、大田と一番近い空港は清州国際空港で、バスで約1時間の距離にあります。清州国際空港は、2025年の利用客が年間400万人で、そのうち国際線利用客が172万人の中部圏の拠点空港です。

【イベント】

《大田サイエンスフェスティバル》

韓国を代表する科学文化のお祭りで、エキスポ科学公園一帯で開催されます。期間中、先端科学技術に関する理解を深めることが出来る科学技術展示や科学文化講演のほか、様々な体験プログラムが開催され、幅広い世代の関心を集めます。



《大田0時祭り》

2023年から始まった夏祭りで、「大田ブルース」という昔の歌の歌詞、「さらば、私は去る。大田発0時50分」から着想した祭りです。タイムトラベルをコンセプトとして、大田の過去・現在・未来に会える祭りです。



《大田パン祭り》

大田パン祭りでは、大田地域の有名なパン屋「聖心堂」をはじめ、全国の有名なパン屋が一堂に会し、様々なパンやデザートが紹介されています。有名な製菓職人によるパン作りの実演や試食コーナーのほか、子供向けの特別な体験プログラムも用意されており、家族連れにも人気であり、多くの人々に愛されているお祭りです。



【スポーツ】

大田には2002年FIFAワールドカップを契機に造られた大田ワールドカップ競技場があります。ここを本拠地として活躍しているのは大田のサッカーチーム「大田ハナシチズン」です。2025年のKリーグでは2位を取った優秀なチームです。

野球の場合、「ハンファイエーグルス」という野球チームがあります。2025年に開業した大田ハンファ生命ボールパークを本拠地としており、2025年度の正規リーグで2018年度の3位以来7年ぶりに2位になり多くのファンを熱狂させました。

【教育・文化】

大田の教育施設は555校あり、生徒総数は256,747人（2025年）です。そのうち幼稚園が224校、小学校が154校、中学校が90校、高校が62校、特殊学校が6校です。大学は、韓国トップレベルのカイスト（KAIST）や地域拠点大学の忠南大学校、私立のハンナム大学校を含め19校が位置しております。

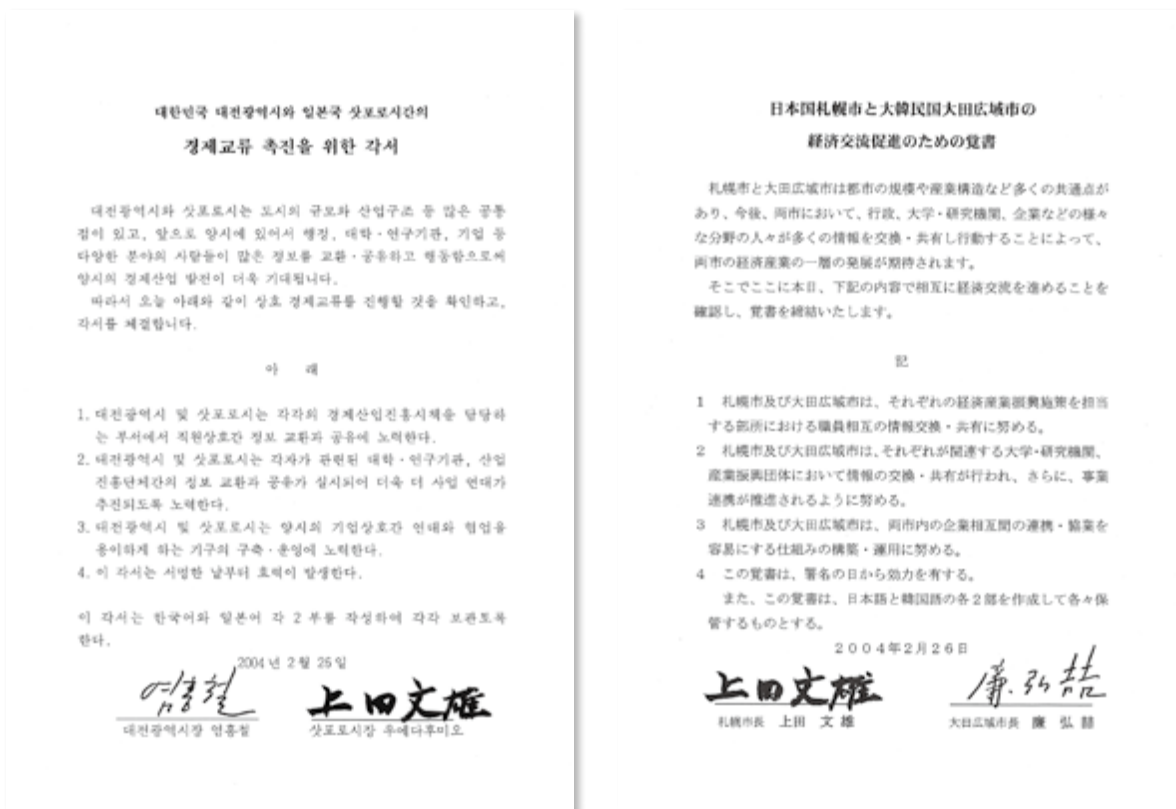
大田市は文化施設も充実しており、公演会場は45ヵ所、博物館は16ヵ所、美術館は5ヵ所、図書館は27ヵ所があります。

【大田市の姉妹都市】

| | | |
|-------|---------|-----------|
| 1986年 | 大田 | (日本) |
| 1989年 | シアトル | (アメリカ) |
| 1994年 | ブダペスト | (ハンガリー) |
| 1994年 | 南京 | (中国) |
| 1996年 | カルガリー | (カナダ) |
| 1997年 | グアダハラ | (メキシコ) |
| 1999年 | ウブサラ | (スウェーデン) |
| 2001年 | ノボシビルスク | (ロシア) |
| 2002年 | ブリスベーン | (オーストラリア) |
| 2005年 | ビンズオン | (ベトナム) |
| 2010年 | 札幌 | (日本) |
| 2011年 | モンゴメリー | (アメリカ) |
| 2013年 | 瀋陽 | (中国) |
| 2017年 | クズロルダ | (カザフスタン) |

資料

日本国札幌と大韓民国大田広域市の経済交流促進のための覚書（2004年2月26日）



大韓民国大田広域市との姉妹都市提携の早期実現に関する要望書（2009年11月26日）

大韓民国大田広域市との姉妹都市提携の早期実現に関する要望書

札幌市長 上田 文雄 様

世界は今、アジアの時代といわれています。昨年来の世界的金融危機の中にあって、中国、インドを中心としたアジア全体が力強い成長を続け、世界における存在感を高めています。そうした中、札幌市がアジア重視の姿勢を掲げ、さまざまな施策を展開していることを、私たちは高く評価するところであります。

現在、札幌市には4つの姉妹都市がございます。それぞれの都市と長年にわたり幅広い交流を続け、札幌市議会も友好親善と相互理解に努めてまいりました。しかしながらアジアを重視している札幌市が距離的に近く、歴史的、文化的に最も深い関係にある韓国の都市と未だ姉妹提携がなされていないことを、私たちは大変残念に思っていたところでございます。

私たち札幌市議会 日韓友好を進める有志の会は札幌市と韓国の都市との姉妹都市提携の実現に向けて、本年11月16日～18日まで、大韓民国を訪問、釜山広域市と大田広域市において、姉妹都市の候補都市として視察を行うとともに、両市市議会への訪問や各界の皆さまと交流を行い、友好と相互理解を深めてまいりました。3日間という短い日程ではありましたが、釜山・大田両市関係者の暖かい歓迎を受け、改めて韓国国民の友情に触れる有意義な訪問となりました。

特に大田市では市議会正副議長はじめ議員の皆さま、市長並びに政務副市長にお会いし、札幌市との提携を希望する熱意を強く感じてまいりました。候補都市のこうした熱意は幅広い市民交流を進める姉妹都市交流にとって必要不可欠のものであり、交流を継続させる力となるものです。

ここに私たち札幌市議会 日韓友好を進める有志の会は、大田広域市との早期の姉妹提携を要望いたしますとともに、大田広域市との姉妹提携を契機に、日韓両国並びに札幌市と大田広域市が21世紀に向けた未来志向の確固たる関係を築いていくことを祈念いたします。

札幌市議会日韓友好を進める有志の会
代 表 高橋 克朋

札幌市と大田広域市との姉妹都市提携に関する決議（2010年9月21日）

札幌市と大田広域市との姉妹都市提携に関する決議

札幌市は、世界に開かれた都市を目指し、多くの国と広く友好関係を醸成することに努めてきた。

一方、大田広域市は、大韓民国の5番目の人口を擁する都市で、札幌市と同様に2002年FIFAワールドカップの会場ともなった都市である。これまで両市の間では、2004年に経済交流促進のための覚書を締結し、これを契機としてさらに、市民交流や青少年及び文化芸術交流など幅広い分野で着実な交流を積み重ねてきた。

札幌市が同じアジアに位置する隣国の大田広域市と姉妹都市提携を行うことは、学術・文化・スポーツ・経済などの各種分野にわたるより親密な交流を通じて、市民相互の理解と友好を深め、両市及び両国のより一層の発展に寄与するとともに、ひいては世界の平和と友好への貢献という意味からも、極めて意義深いものとする。

よって、市長においては、市民の理解と協力のもとに、ポートランド、ミュンヘン、瀋陽、ノボシビルスクの4市に次ぐ第5の姉妹都市として、大韓民国大田広域市との都市提携の締結を速やかに実現されるよう要望するものである。

上記につき、決議する。

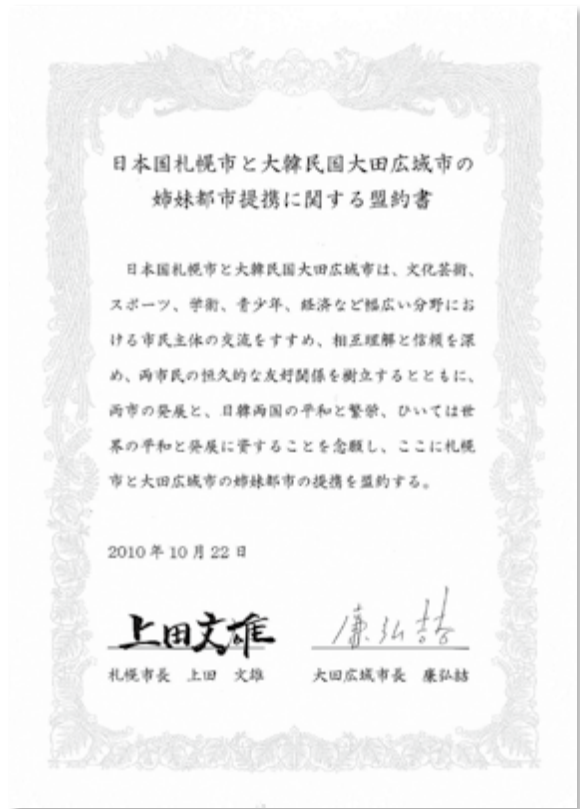
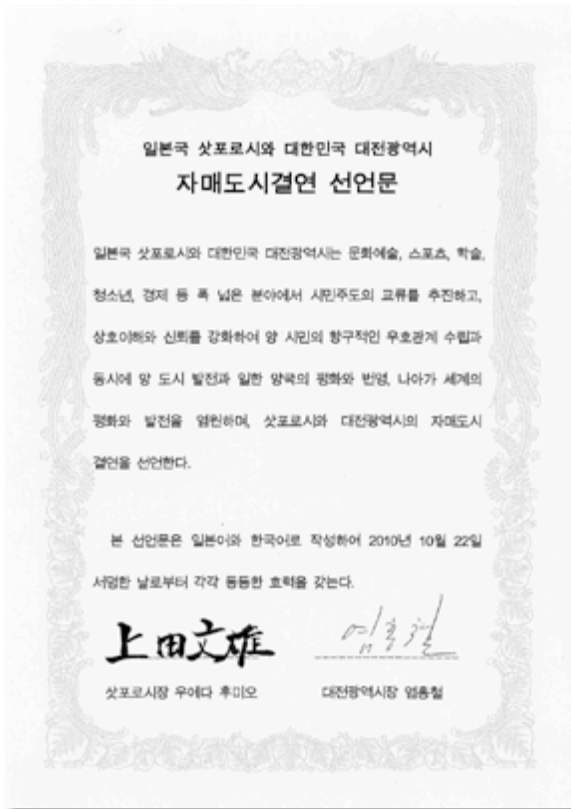
平成22年（2010年）9月21日

札幌市議会

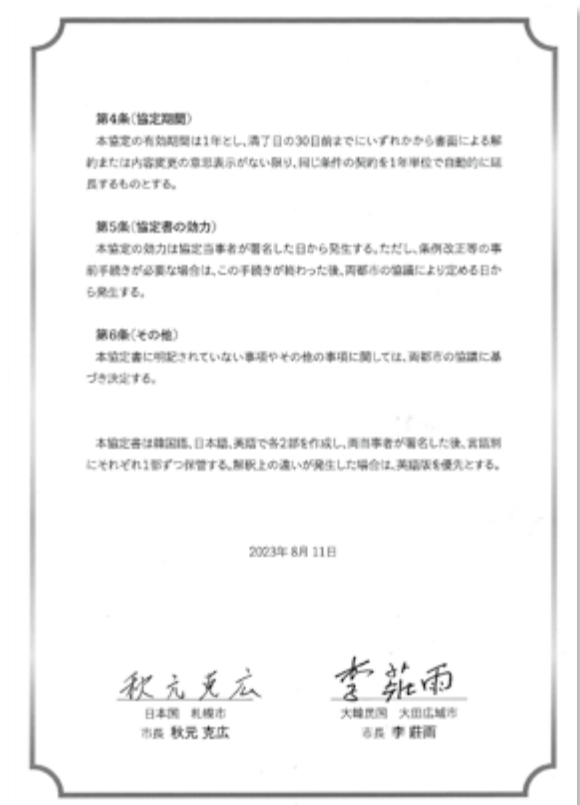
（提出先）札幌市長

（提出者）全議員

日本国札幌と大韓民国大田広域市の姉妹都市提携に関する盟約書（2010年10月22日）



姉妹都市間民間交流活性化に関する協定書（2023年8月11日）

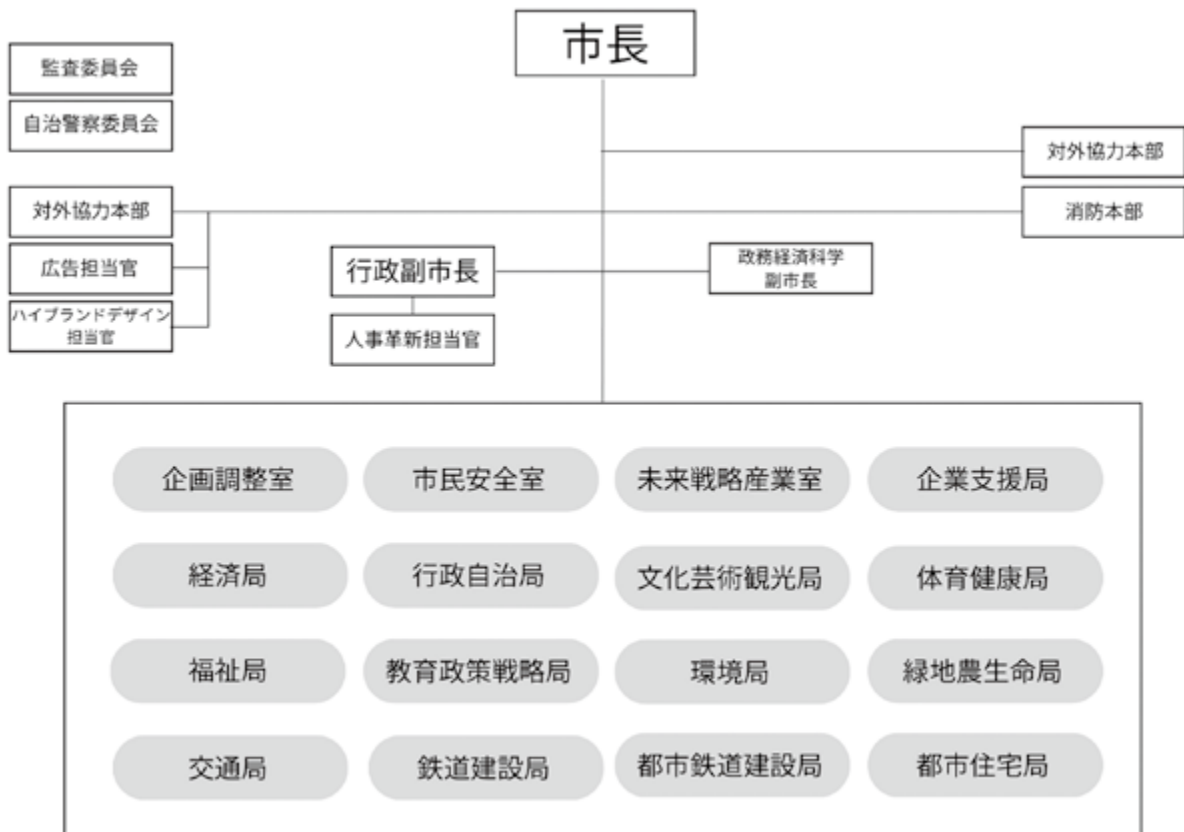




【札幌・大田交流提携団体一覧】

| 提携年月 | | 提携団体 | |
|------|----------|-------------------------------|-----------------------------------|
| 1 | 1995年11月 | 北海学園北見大学 (現北海商科大学) | 大田大学校 |
| 2 | 1996年7月 | 北海商科大学 | 大田大学校 |
| 3 | 1999年2月 | 北海学園大学 | 大田大学校 |
| 4 | 2001年7月 | 北海道大学 | 忠南大学校 |
| 5 | 2005年11月 | 北海高等学校・北海学園札幌高等学校 | 大田大学校 |
| 6 | 2007年11月 | 札幌大学文化学部 | 培材(ベジエ)大学校 |
| 7 | 2010年2月 | 北海道テレビ放送(株)(HTB) | (株)大田放送(TJB) |
| 8 | 2010年10月 | (公財)札幌国際プラザ (コンベンションビューロー) | 大田コンベンションビューロー (現大田観光公社) |
| 9 | 2010年10月 | (公財)札幌国際プラザ | 国際交流文化院 |
| 10 | 2010年10月 | 札幌旭丘高等学校 | 大田外国語高等学校 |
| 11 | 2012年2月 | 札幌姉妹都市協会 | 大田一札幌姉妹都市委員会 |
| 12 | 2013年2月 | (公財)札幌国際プラザ | 大田国際交流センター (現テジョン外国住民統合支援センター) |
| 13 | 2017年9月 | 札幌市立大倉山小学校 | 鶴下(ハッカ)小学校 |
| 14 | 2018年11月 | 公益社団法人 札幌聴覚障害者協会 | 社団法人韓国ろうあ者協会 テジョン広域市協会 |
| 15 | 2023年2月 | 札幌市立澄川西小学校 | ドゥンサン小学校 |
| 16 | 2025年3月 | 北星学園大学 | 韓南大学校 |

大田広域市の行政組織と歴代大田広域市長



【歴代市長（広域市昇格後～）】

| | |
|-----------|----------|
| 1989～1990 | イ・ボンハク |
| 1990～1992 | ホン・ソンギ |
| 1992～1993 | キム・ジュボン |
| 1993～1995 | ヨム・ホンチョル |
| 1995～1995 | キム・ボソン |
| 1995～2002 | ホン・ソンギ |
| 2002～2006 | ヨム・ホンチョル |
| 2006～2010 | パク・ソンヒョ |
| 2010～2014 | ヨム・ホンチョル |
| 2014～2017 | クォン・ソンテグ |
| 2018～2022 | ホ・テジョン |
| 2022～ | イ・ジャンウ |

札幌・大田 姉妹都市提携15周年記念誌

SAPPORO

発行年月／ 令和8年（2026年）3月

発行／ 札幌市総務局国際部交流担当課

札幌市中央区北1条西2丁目

TEL：(011) 211-2032

印刷／ 柏楊印刷株式会社

本文中の肩書、名称等は、特に記載が無い限り、当時のものとなります。



札幌・大田

姉妹都市提携15周年記念誌

